

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O175800309		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム 鶴城の郷 (ユニット名)すずらん		
所在地	北海道空知郡南幌町南18線西11番地		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0175800309-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0175800309-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム鶴城の郷のケア理念にあげている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人のペースを守り共に支えあう</li> <li>・家族地域の触れ合いを大切にする</li> </ul> <p>を常に念頭におき日々のケアを実践しています。</p> <p>母体の医療法人の協力を得ながら、健康管理や医療面の知識の習得などに力を入れ、皆様が健康に日々過ごしていただけるように努力しています。立地的には市街地から離れていますが、建物の空間が広いので開放的な雰囲気、畑もあり自然豊かです。家庭的な雰囲気を大切にしつつ、個人としての時間も尊重しています。入居されている皆さんが支えあって生活していけるような援助を心がけています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム 鶴城の郷」は、南幌町の広大な田園地帯に位置している平屋建ての2ユニットのグループホームである。既存の建物を改築したユニットと廊下伝いに増築したユニットで、トイレや浴室なども手すりなどを要所に設置して使いやすい造りになっている。管理者を中心に、全職員で前回の課題にも前向きに取り組み、殆どの目標が達成されている。近隣に住宅が少なく、地域住民との交流が難しい環境の中、小学校の運動会の総練習を見学したり、学童保育の子供達を招いて利用者で交流する機会を作るなど、積極的に地域交流に努めている。紙芝居やアコーディオン演奏などの地域のボランティアも定期的に来訪している。近隣住民の畑で、とうもろこしの収穫をさせてもらう機会もある。日頃から町役場との連携も深められており、事業所の行事に役場の職員が参加したり、学童保育の訪問時には子供達の送迎などで協力を得ている。利用者の意向に沿って馴染みの美容室や郷土資料館に出かけたり、知人や友人などが来訪するなど、以前からの生活をできる限り継続できるように支援している。管理者を中心に、全職員での理念に対する理解を深めて、各利用者の思いや意向に沿って、一人ひとりのペースを大切に家庭的で温かな支援を行っている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念があり、皆が確認できるように掲示している。事業計画にも盛り込んでいる。また、日々のケア・行事・業務においては理念に基づいて検討し実践につなげている。行事などを通して、ご家族や地域の方に来ていただく機会を設けている。	「ご家族や地域のふれあいを大切にします」という、地域密着型サービスを意識した文言をケア理念の項目のひとつに掲げている。新人研修で説明したり、地域住民や家族が参加する年間行事を計画する時に職員間で理念を再認識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市街地から離れていて交流の場は少ないが、畑おこしをしていただいたり、施設バーベキューや避難訓練に声をかけ参加していただいている。町内の行事や商店への外出など在宅時のなじみの関係が続けられるようにしている。町内のボランティアにも来ていただいている。学童保育生徒にも来ていただいた。	法人主催の「ゆう祭」に参加して地域住民と交流したり、ハンドマッサージや紙芝居、アコーディオンのボランティアなどが来訪している。畑の草むしりなどを手伝ってもらうこともある。夏休みに学童保育の子供達が来訪して、利用者やゲームや折り紙製作をしたり、一緒におやつを食べている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学童保育の生徒の訪問や、地域行事への参加で理解していただく場としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を行い報告・話し合いを行っている。地域の老人会、保険者からの意見やアドバイスをいただき運営に反映させている。	年度初めにテーマを設定し、避難訓練や外部評価報告、感染症などについて開催し、消防署員のアドバイスを災害マニュアルの作成に活かしている。会議案内の他、個別便りなどでも周知しているが家族の参加は少なくなっている。	テーマを記載した会議案内を送付して、来訪時などに意見を聞き取りながら参加できない家族の意見も会議に活かすよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは情報交換を常に行っている。運営推進会議・避難訓練や行事への参加もしている。	介護保険の更新申請や早朝の見守り体制などについて相談している。入居希望者などについて話をする機会もある。避難訓練やバーベキュー行事などにも役場の職員が参加して、利用者や交流している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部や外部の研修会に参加し身体拘束をしないケアを実践している。夜間の施錠以外は開けていて、ユニット同士が協力しあいゲームや外出などの気分転換をはかりながら対応している。言葉での抑制にならないように気を付けている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、「禁止の対象となる具体的な行為」11項目をスタッフルームに掲示している。ミーティングや外部研修後の報告研修で、身体拘束について理解を深めている。布団に変更したり、家具類の配置を変えてベッド柵などで拘束しないように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人での研修会への参加や外部の研修会の参加をミーティングなどで職員に周知し、不適切なケアにつながっていないか振り返っている。言葉や精神面での拘束に注意している。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に新規の相談ケースについては制度の説明を行っている。現在対象者はいないが、経済的な保護を必要とする方については、関係者にその都度相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、文書を用いてご家族(必要な場合はご本人も含め)説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にはご家族と話し合う機会を設けている。また法人全体で意見・要望をくみ取るシステムを構築しており、ご家族にも文書での配布をし表しやすい様にしている。	家族の来訪時に、本人の様子を伝えながら意見や要望を聴き取るように配慮している。家族の意見や要望は個別の生活日誌に記録しているが、今後は些細な思いも更に把握できるように、別紙に個別に記録していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例のミーティングやカンファレンスでの話し合いのほかに、日々の業務の中でも遠慮なく話し合える機会を作り反映させている。職員と管理者との個別面接も行っている。毎月定例で法人の役職者との話し合いも行っている。	管理者は、普段の業務の中で各職員の意見や提案を聴き取り、随時検討しながら速やかに実施できるように取り組んでいる。実施経過をミーティングで再検討しながら適切な対応を行っている。職員は、行事や誕生会などの係を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力や業務目標達成に応じての評価を行っている。職員との個人面談を行い労働条件等の希望や把握に努めている。体調、年齢、家庭の状況を考慮した勤務体制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会の参加の機会を設けるほか、グループホーム内での伝達研修やグループホームの実践に近い内容の研修会を行うために、ほかのグループホームと合同で準備している。また、新人を育てるシステムがある。個人のスキルアップの研修は、シフト作成時に考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の他のグループホームとの連絡会があり、管理者が参加して情報交換や交流の機会を設けている。また、ほかのグループホームの事例検討会に参加し、研修の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居まもなくの方に対しては、ご本人様との会話や活動を通して、何に興味があるか、何をしたいのかを確認してケアに努めている。ご家族との連絡を密にして情報の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居まもなくの方に対しては、特に心配りをしてご本人様の今までの生活スタイルや習慣に即して対応できるように言葉かけをし確認している。ご家族との連絡を密にして情報の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントなどや入居調整の段階でまず必要なサービスを把握し、入居時の介護サービス計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の思いや残存能力に応じた家事参加や趣味参加を通じて、日々の暮らしの中での役割や満足を感じていただけるように配慮している。職員より上手にできる作業については、快く引き受けてくださり助かっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月定例のお便り等での情報提供のほかに、誕生会や行事への参加、面会時の情報交換など共に考え、参加していただくようにしている。金銭出納の確認で毎月来ていただく機会ができた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人への電話、面会の支援や在宅時に関わっていた商店への外出など継続的に支援している。美容室や歯医者は以前から利用しているところに継続して通っている。	近隣に住んでいた方や宗教関係の知人、老人会仲間などが年数回来訪することもある。お寺から広報紙が届く利用者もいる。職員と一緒に郷土資料館や馴染みの美容室に出かけることもある。家族と外食や温泉、自宅に帰宅する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者関係を重視し、また負担にならないように配慮して食事の座席や外出のメンバー等を考えている。また、あまり交流のない方に対しては交流の場を作りできるだけ理解されるように機会を作っている。行事や作業でお互いに楽しんでいただくよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の先行の確保に協力し、利用者やご家族が不安にならないようにしている。入院している時もお見舞いなど伺わせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中でご本人の思いや希望をくみ取り話し合い、個別のケアプランを重視したかかわりを行っている。少人数での外出などで、希望を取り入れている。	日々の会話や仕草、表情、精神状態などから思いや意向を把握している。利用開始時に「私の暮らし方シート」を活用して趣味や嗜好などを把握しているが、定期的な更新は行われていない。	「私の暮らし方シート」を活用して随時変化を追記し、定期的な更新を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のかかわりの中でご本人様からの話を伺い、ご家族や在宅時のサービス担当者からの情報把握に努めている。ケアマネや入所していた施設からの情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った1日の過ごし方を重視しながら、バイタルや精神・一般状態の把握、申し送りなどを通じての経過の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化時や定期的なカンファレンスやモニタリングで個別の介護計画を作成している。栄養士や言語聴覚士を交えて、食支援の取り組みを行い、食事摂取の向上を目指している。	変化が無ければ3か月毎にモニタリングを行い、担当職員を中心に6か月毎に評価を行いながら介護計画を更新している。日々の記録は、介護計画の課題に沿った記録から、具体的な計画内容に沿った記録に変更することも考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各スタッフが日々の生活記録から、支援経過に落とし込み、モニタリングや介護計画の見直しや日々の問題の原因究明に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の他の事業所の専門職や、町内の歯科医などと連携している。食支援についての取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや消防など地域の方々の活動や協力を定期的に受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の主治医への定期受診や検査、その他専門医への受診などは家族と連絡を取りながら希望する医療機関への受診支援を行っている。	町内の医療機関は事業所で受診支援を行い、主治医と連携して適切な対応を行っている。病状に応じて、家族の同行も依頼している。受診記録は「看護記録用紙」に記入している。	

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションや協力医療機関への状態報告は毎日行っている。夜間、休日に利用者に変化がみられる際には状況を伝え、相談・指示を受けることが出来る。受診し場合によっては訪問看護を受けられる体制はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	場合によってはご家族の了解を得て訪問看護を利用してホームでの治療をし、利用者の環境変化での負担が軽減できるように対応している。入院した際も病院側との情報交換を密にして早期退院できるように努めている。協力医療機関はそれを十分理解し協力してくれる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針にそって、利用者・ご家族・医師と相談できる体制を作っている。また契約時に説明しご家族の考えをお聞きしている。経口摂取ができなくなると対応は困難であることは事前に伝えている。終末期には、医師の説明と一緒に聞き、ホームでの対応を丁寧に説明している。	「重度化に関する対応指針」を作成し、利用開始時に事業所で可能な対応について説明している。訪問看護での対応や経口摂取が可能であれば、意向に沿って看取りも行っている。事業所での対応が難しい場合は、適切な施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者に相談し指示を受けることが多いが、実践力を身につけるように法人の協力を得ながら、定期的な研修会をしている。消防での救急救命研修へも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的防火訓練も実施している。防火訓練には地域の方にも協力をしていただき実施している。定期的にミーティングの場での避難の確認を行っている。緊急連絡網訓練や防災設備確認の部分訓練も行っている。	年2回、消防署の協力を得て運営推進会議時に昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。前回の課題であった備蓄品も充実させて整備している。法人は、水害や地震の防災マニュアルの作成に取り組んでいる。	法人の防災マニュアルに沿って、水害時や地震時の事業所としての具体的な対応について話し合うよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格や生活歴を尊重した対応をしている。またプライバシーには配慮した言葉かけや対応をするようにしている。研修にも参加し得た知識を他の職員にも伝達している。	年1回は接遇マナーの基本原則を全員で確認し、日々会議等で言葉遣いや対応について話し合っている。申し送り時や記録を書く時は周囲に注意して行い、個人的な事は居室で聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人の思いを重視するように心がけ、自己決定の難しい方には選択できるようにしたり、日頃の思いを反映するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己主張の強い方が多いので、各自の希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容についてはなじみのお店がある方は、外出の支援を行い、不安になる方はホームに訪問していただき、カット、パーマ、カラーリングを行っている。化粧品も買い物で購入しそれぞれが楽しまれている。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けは役割をもって行っていたいている。苦手な食材や咀嚼嚥下の状況によっては代替品などで対応している。ミキサー食から食形態アップの取り組みをしている	主食や味噌汁はホームで作り、おかず類は調理されて届いた物を盛り付けている。誕生日には、刺身、天婦羅、ちらし寿司等本人の好きな料理でお祝している。畑の収穫物で、バーベキューやかぼちゃ団子作りなどを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは専門職が作成している。ご本人の嗜好に合わせた飲み物や食材で必要な摂取量が摂れるように支援している。嚥下困難な方にはゼリーなども作って摂取していただいている。その方の体調にあった栄養摂取や水分補給をしている。栄養摂取不足の方には、栄養補助飲料を提供し補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はその方の能力に応じた口腔ケアを行っている。また変化があれば歯科受診をしてアドバイスをしていただいている。定期的に訪問歯科に来ていただいている。舌の汚れも気にしてみている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し排泄誘導を行いトイレでの排泄を支援している。パットやおむつの使用は最小限にしている。	排泄の状態を記録し、失敗がないように間隔を見て促したり、自力でパッド交換が出来る方には自室に準備して状態を見守っている。各人に合わせた声かけや介助で自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	周辺症状などからも便秘が原因の事もあるため、運動・水分補給・食物繊維をとるための工夫やヨーグルトなどの食品での対応を常時行い改善がみられ、下剤の減少に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴を実施している。気分や体の状態に合わせて入浴日や時間は調整している。	午後の時間帯に、湯加減や順番の希望に沿って週2回の入浴を支援している。シャワー浴を希望する方以外は全員が湯船に浸かり、会話を楽しんだり、入浴剤の使用で気持ちよく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせた就寝・起床介助を行っている。自らの訴えが難しい方は表情、体調、疲労などを考慮しながら休息の支援を行っている。お部屋を暖かくし、入眠できるような環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理を行い、副作用の出現や症状の変化等を医師に報告し、睡眠薬や下剤等の調整も細かく行っている。臨時薬については受診時連絡票を作成し医師の指示が確認できるようにしている。高血圧や糖尿の方の症状と薬はチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や家事分担、畑づくりや裁縫などその方が得意とするものを行っていただき、力を発揮できるように支援している。その日の気分によって活動内容を変え、柔軟に対応している。できることをできるように係り方を考えて対応している。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の外出行事や個別での希望に沿った外出の支援を行っている。買い物やドライブなど出かける機会を作るようにしている。ご家族へも外出などお願している。	日常的に散歩し、庭にぶどう棚やプラムを育て散歩が楽しめるように工夫している。外出行事で季節の花見や農場、資料館等を見学してアイスクリームや外食を楽しんでいる。個別の外出支援の他、畑作りや収穫で外気に触れる機会が多い。家族と温泉に出かける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にお金を所持している方はいないが、預けていることを理解しており、お祭りの寄付や孫への小遣いを職員に依頼してくることはあるので、ご本人に渡すようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けていただいている。希望時は職員が代わりにかけることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい雰囲気を重視し、制作した作品を飾り季節感が感じられるようにしている。廊下やトイレには手すりを設置している。身体能力の低下により、必要な個所には手すりを増設した。	民家を改造したユニットと廊下伝いに増築したユニットの共用空間は広々としている。居間の大きな窓から陽が入り、明るく開放感がある。ウッドデッキでお茶を飲みながら周囲の畑や風景を眺めて季節感を感じる事ができる。行事の写真や作品を飾り、温もりのある家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置などを配置して自由にくつろげるようにしている。また、自分の場所の意識の強い方には、安心できる場所で過ごしていただく配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族をお願いして、今まで使っていたものを用意していただいている。湯飲みや茶碗、箸なども個人個人で用意していただき自分のものと理解できるようにしている。	居室には、ハンガーラックや家具類、小物類を持ち込み、各人が過ごしやすいように配置している。大きな仏壇やテレビ、時計等が置かれている。家族の写真や装飾品などを飾り、居心地よい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族とも相談しながら車いす、歩行器、手すり、など用意し個人個人の能力に応じた介助で自立支援に努めている。		

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O175800309		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム 鶴城の郷 (ユニット名)たんぼぼ		
所在地	北海道空知郡南幌町南18線西11番地		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホーム鶴城の郷のケア理念にあげている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人のペースを守り共に支えあう</li> <li>家族地域の触れ合いを大切にする</li> </ul> <p>を常に念頭におき日々のケアを実践しています。</p> <p>母体の医療法人の協力を得ながら、健康管理や医療面の知識の習得などに力を入れ、皆様が健康に日々過ごしていただけるように努力しています。立地的には市街地から離れていますが、建物の空間が広いので開放的な雰囲気、畑もあり自然豊かです。家庭的な雰囲気を大切にしつつ、個人としての時間も尊重しています。入居されている皆さんが支えあって生活していけるような援助を心がけています。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0175800309-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0175800309-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念があり、皆が確認できるように掲示している。事業計画にも盛り込んでいる。また、日々のケア・行事・業務においては理念に基づいて検討し実践につなげている。行事などを通して、ご家族や地域の方に来ていただく機会を設けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市街地から離れていて交流の場は少ないが、畑おこしをしていただいたり、施設バーベキューや避難訓練に声をかけ参加していただいている。町内の行事や商店への外出など在宅時のなじみの関係が続けられるようにしている。町内のボランティアにも来ていただいている。学童保育生徒にも来ていただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学童保育の生徒の訪問や、地域行事への参加で理解していただく場としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに運営推進会議を行い報告・話し合いを行っている。地域の老人会、保険者からの意見やアドバイスをいただき運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは情報交換を常に行っている。運営推進会議・避難訓練や行事への参加もしていただいている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部や外部の研修会に参加し身体拘束をしないケアを実践している。夜間の施錠以外は開けていて、ユニット同士が協力しあいゲームや外出などの気分転換をはかりながら対応している。言葉での抑制にならないように気を付けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での研修会への参加や外部の研修会の参加をミーティングなどで職員に周知し、不適切なケアにつながっていないか振り返っている。言葉や精神面での拘束に注意している。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に新規の相談ケースについては制度の説明を行っている。現在対象者はいないが、経済的な保護を必要とする方については、関係者にその都度相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、文書を用いてご家族(必要な場合はご本人も含め)説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にはご家族と話し合う機会を設けている。また法人全体で意見・要望をくみ取るシステムを構築しており、ご家族にも文書での配布をし表しやすい様になっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例のミーティングやカンファレンスでの話し合いのほかに、日々の業務の中でも遠慮なく話し合える機会を作り反映させている。職員と管理者との個別面接も行っている。毎月定例で法人の役職者との話し合いも行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力や業務目標達成に応じての評価を行っている。職員との個人面談を行い労働条件等の希望や把握に努めている。体調、年齢、家庭の状況を考慮した勤務体制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会の参加の機会を設けるほか、グループホーム内での伝達研修やグループホームの実践に近い内容の研修会を行うために、ほかのグループホームと合同で準備している。また、新人を育てるシステムがある。個人のスキルアップの研修は、シフト作成時に考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の他のグループホームとの連絡会があり、管理者が参加して情報交換や交流の機会を設けている。また、ほかのグループホームの事例検討会に参加し、研修の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居まもなくの方に対しては、ご本人様との会話や活動を通して、何に興味があるか、何をしたいのかを確認してケアに努めている。ご家族との連絡を密にして情報の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居まもなくの方に対しては、特に心配りをしてご本人様の今までの生活スタイルや習慣に即して対応できるように言葉かけをし確認している。ご家族との連絡を密にして情報の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前のアセスメントなどや入居調整の段階でまず必要なサービスを把握し、入居時の介護サービス計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の思いや残存能力に応じた家事参加や趣味参加を通じて、日々の暮らしの中での役割や満足を感じていただけるように配慮している。職員より上手にできる作業については、快く引き受けてくださり助かっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月定例のお便り等での情報提供のほかに、誕生会や行事への参加、面会時の情報交換など共に考え、参加していただくようにしている。金銭出納の確認で毎月来ていただく機会ができた。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人への電話、面会の支援や在宅時に関わっていた商店への外出など継続的に支援している。美容室や歯医者は以前から利用しているところに継続して通っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者関係を重視し、また負担にならないように配慮して食事の座席や外出のメンバー等を考えている。また、あまり交流のない方に対しては交流の場を作りできるだけ理解されるように機会を作っている。行事や作業でお互いに楽しんでいただくよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の行先の確保に協力し、利用者やご家族が不安にならないようにしている。入院している時もお見舞いなど伺わせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中でご本人の思いや希望をくみ取り話し合い、個別のケアプランを重視したかかわりを行っている。少人数での外出などで、希望を取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のかかわりの中でご本人様からの話を伺い、ご家族や在宅時のサービス担当者からの情報把握に努めている。ケアマネや入所していた施設からの情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合った1日の過ごし方を重視しながら、バイタルや精神・一般状態の把握、申し送りなどを通じての経過の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化時や定期的なカンファレンスやモニタリングで個別の介護計画を作成している。栄養士や言語聴覚士を交えて、食支援の取り組みを行い、食事摂取の向上を目指している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各スタッフが日々の生活記録から、支援経過に落とし込み、モニタリングや介護計画の見直しや日々の問題の原因究明に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の他の事業所の専門職や、町内の歯科医などと連携している。食支援についての取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや消防など地域の方々の活動や協力を定期的に受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の主治医への定期受診や検査、その他専門医への受診などは家族と連絡を取りながら希望する医療機関への受診支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションや協力医療機関への状態報告は毎日行っている。夜間、休日に利用者に変化がみられる際には状況を伝え、相談・指示を受けることが出来る。受診し場合によっては訪問看護を受けられる体制はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	場合によってはご家族の了解を得て訪問看護を利用してホームでの治療をし、利用者の環境変化での負担が軽減できるように対応している。入院した際も病院側との情報交換を密にして早期退院できるように努めている。協力医療機関はそれを十分理解し協力してくれる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針にそって、利用者・ご家族・医師と相談できる体制を作っている。また契約時に説明しご家族の考えをお聞きしている。経口摂取ができなくなると対応は困難であることは事前に伝えている。終末期には、医師の説明と一緒に聞き、ホームでの対応を丁寧に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者に相談し指示を受けることが多いが、実践力を身につけるように法人の協力を得ながら、定期的な研修会をしている。消防での救急救命研修へも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防火訓練も実施している。防火訓練には地域の方にも協力をしていただき実施している。定期的にミーティングの場での避難の確認を行っている。緊急連絡網訓練や防災設備確認の部分訓練も行っている。		

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の性格や生活歴を尊重した対応をしている。またプライバシーには配慮した言葉かけや対応をするようにしている。研修にも参加し得た知識を他の職員にも伝達している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人の思いを重視するように心がけ、自己決定の難しい方には選択できるようにしたり、日頃の思いを反映するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己主張の強い方が多いので、各自の希望に沿って対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容についてはなじみのお店がある方は、外出の支援を行い、不安になる方はホームに訪問していただき、カット、パーマ、カラーリングを行っている。化粧品も買い物で購入しそれぞれが楽しめている。		

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けは役割をもって行っている。苦手な食材や咀嚼嚥下の状況によっては代替品などで対応している。ミキサー食から食形態アップの取り組みをしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは専門職が作成している。ご本人の嗜好に合わせた飲み物や食材で必要な摂取量が摂れるように支援している。嚥下困難な方にはゼリーなども作って摂取していただいている。その方の体調にあった栄養摂取や水分補給をしている。栄養摂取不足の方には、栄養補助飲料を提供し補っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後はその方の能力に応じた口腔ケアを行っている。また変化があれば歯科受診をしてアドバイスをいただいている。定期的に訪問歯科に来ていただいている。舌の汚れも気にしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し排泄誘導を行いトイレでの排泄を支援している。パットやおむつの使用は最小限にしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	周辺症状などからも便秘が原因の事もあるため、運動・水分補給・食物繊維をとるための工夫やヨーグルトなどの食品での対応を常時行い改善がみられ、下剤の減少に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は入浴を実施している。気分や体の状態に合わせて入浴日や時間は調整している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせた就寝・起床介助を行っている。自らの訴えが難しい方は表情、体調、疲労などを考慮しながら休息の支援を行っている。お部屋を暖かくし、入眠できるような環境づくりをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の管理を行い、副作用の出現や症状の変化等を医師に報告し、睡眠薬や下剤等の調整も細かく行っている。臨時薬については受診時連絡票を作成し医師の指示が確認できるようにしている。高血圧や糖尿の方の症状と薬はチェックしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や家事分担、畑づくりや裁縫などその方が得意とするものを行っていただき、力を発揮できるように支援している。その日の気分によって活動内容を変え、柔軟に対応している。できることをできるように係り方を考えて対応している。			

グループホーム 鶴城の郷

自己評価	外部評価	項目	自己評価(たんぽぽ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月の外出行事や個別での希望に沿った外出の支援を行っている。買い物やドライブなど出かける機会を作るようにしている。ご家族へも外出などお願いしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際にお金を所持している方はいないが、預けていることを理解しており、お祭りの寄付や孫への小遣いを職員に依頼してくることはあるので、ご本人に渡すようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけていただいている。希望時は職員が代わりにかけることもある。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい雰囲気を重視し、制作した作品を飾り季節感が感じられるようにしている。廊下やトイレには手すりを設置している。身体能力の低下により、必要な個所には手すりを増設した。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置などを配置して自由にくつろげるようにしている。また、自分の場所の意識の強い方には、安心できる場所で過ごしていただく配慮をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いして、今まで使っていたものを用意していただいている。湯飲みや茶碗、箸なども個人個人で用意していただき自分のものと理解できるようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族とも相談しながら車いす、歩行器、手すり、など用意し個人個人の能力に応じた介助で自立支援に努めている。			

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 鶴城の郷

作成日：平成 29年 1月 6日

市町村受理日：平成 29年 1月 11日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所としての具体的な防災マニュアルの作成ができていない。	事業所に即した防災マニュアルの作成	法人の防災委員会で法人のマニュアルの作成に取り組んでいる。現時点では、事業所ごとの防災マニュアル作成のためのひな形を作成中で、今後各事業所で作成をしていくことになっている。その際には、各職員と話し合いながら、より現場に即した対応のマニュアルを作成する。	3か月
2	4	会議内のテーマを決めて案内はしているが、運営推進会議へのご家族様の参加が少ないため、意見を聞く機会が十分ではない。	会議の場面だけではなく、面会時に意見を伺い、その意見を会議の中で反映させ、すべてのご家族様に議事録の中で返答できるようにする。	運営推進会議のテーマとして具体的な項目を列挙し、年度初めに送付。面会時に意見や質問を伺う。テーマの決定は今年度末に職員にも検討してもらい、面会時に職員がご家族に伺うことができるようにする。	テーマ 3か月 意見を伺う 6か月
3	23	利用者様の趣味や嗜好について入居時に記入しているが、その後の更新がない。変化していることが記載されていない。	センター方式「私の暮らし方シート」を定期的に更新する。	1年に1回、介護保険更新時のアセスメントの時に見直し、追加記入していく。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。